北海道大学大学院医学研究院

眼科学教室　後期研修プログラム

Department of Ophthalmology Faculty of Medicine and Graduate School of Medicine Hokkaido University
Training Program

Ophthalmology

「北大眼科へようこそ！」

石田　晋

北海道大学大学院医学研究院
眼科学教室　教授

前期研修を終わられた皆さん、あるいは専門医となるための研修先を探していられる先生、
それぞれの夢や未来を描き探りながら、研修の場を検討中と思います。
長い歴史と伝統ある北海道大学大学院医学研究院眼科学教室は、
北海道全域にわたる地域医療の中核であると同時に、
世界に向けて最新の学術情報を発信し眼科学の発展に寄与する責務を担っています。

このため北大眼科では、学問の修得とともに患者さんの心に配慮できる良医を育成します。
そして、医学研究の重要性をしっかり理解する臨床医を育成し、
その研究成果が医療レベルを向上させ、
患者さんへの福音となるよう教室員一同で努力しております。
さらに、次世代の教育者を育成するため、
5年後10年後といった先を見据えた教育システムも充実させています。

眼は、外界の情報を取り入れるのに最も大切な感覚器です。
その病気を治して患者さんとともに喜びを分かち合えるのが眼科学の一つの醍醐味です。
しかしながらいまだに難治性の失明疾患も多く、
その病態メカニズムの解明や新しい治療の開発はわれわれの急務でもあります。
このようなやりがいのある仕事を北大眼科で一緒にしませんか？
夢は大きいほど毎日が充実します。
道内はもとより全国からやる気のある人材を募集しております。

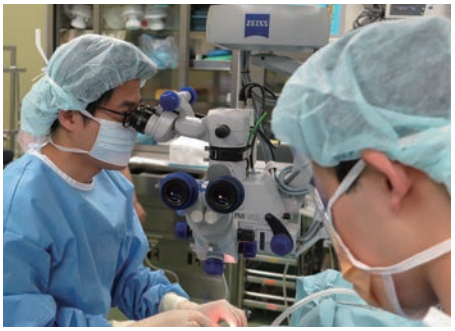
診療・研究・教育の全てにおいて活気ある教室を一緒に作りましょう！

研修プログラムについて

「所見を正しく取り、それを誤りなく理解して、適切な治療を行う」―この臨床医の基本に基づき、
北大眼科では『バランスのとれた臨床経験を有する優れた眼科臨床医の育成』に向けて、
研修医の先生方がより良い後期臨床研修を行える環境を整えています。
北大病院で初期研修を受けられた方も、北大病院以外で初期研修を受けられた方も、
出身大学や国籍に関係なく、分け隔てなく教育・指導を行います。

特徴① 実地能力を習得できる手術教育

最初は手術助手としての研修を重ね、それと同時に、ウェットラボ（豚眼を使用した手術練習）にて手術技術の習得を行い、眼科サージャンへのステップを重ねていきます。
あわせて、手術DVD等を使用した専門医からの講習も数多く実施されます。
北大眼科では年間2，000件に上る手術が行われています。
ウェットラボによる技術習得後、指導医の監督下で、実際の患者さんの手術を執刀していきます。



コラム～よくある質問～その１

Q：どのような関連病院がありますか？
A：札幌を中心に各地方都市に12の研修病院があります。詳しくはHPをご覧ください。

Q：何年間北大で、何年間外の病院に行くのですか？
A：はじめの１年は北大で、その後は関連病院で研修を行います。関連病院での研修期間は２～４年で、その後の進路により異なります。眼科専門医となるために必要とされる条件を満たすようにプログラムされています。

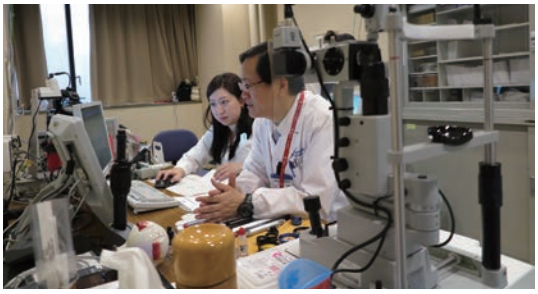
Q：眼科ローテート期間が短いと、入局後のカリキュラムがかわってくるのでしょうか？
A：原則として入局後は全員同一のプログラムに則って、研修をおこないます。

Q：初めから北大で学べますか？また、北大卒でないと最初から外の病院になるのでしょうか？
A：前述のように、原則として後期研修医としての１年間は、北海道大学病院で研修を行うことになっています。出身大学は全く関係ありません。

特徴② 多岐にわたる専門外来

北大眼科には、14の専門外来があり、
眼科医療を牽引する各分野のスペシャリストが教育にあたります。

網膜硝子体外来	責任医師: 齋藤　理幸
涙道外来	責任医師: 山本　哲平
ぶどう膜炎外来	責任医師: 南場　研一(診療准教授)
斜視・小児眼科外来	責任医師: 安藤　亮
角膜移植外来	責任医師: 田川　義晃
眼アレルギー外来	責任医師: 南場　研一(診療准教授)
ドライアイ外来	責任医師: 田川　義晃
緑内障外来	責任医師: 陳　進輝(診療教授)
眼循環代謝外来	責任医師: 加瀬　諭(講師)
黄斑外来	責任医師: 野田　航介(准教授)
眼形成手術外来	責任医師: 石嶋　漢
神経眼科外来	責任医師: 新明　康弘(診療講師)
白内障外来	責任医師: 笹本　洋一(客員臨床教授)
眼腫瘍外来	責任医師: 加瀬　諭(講師)



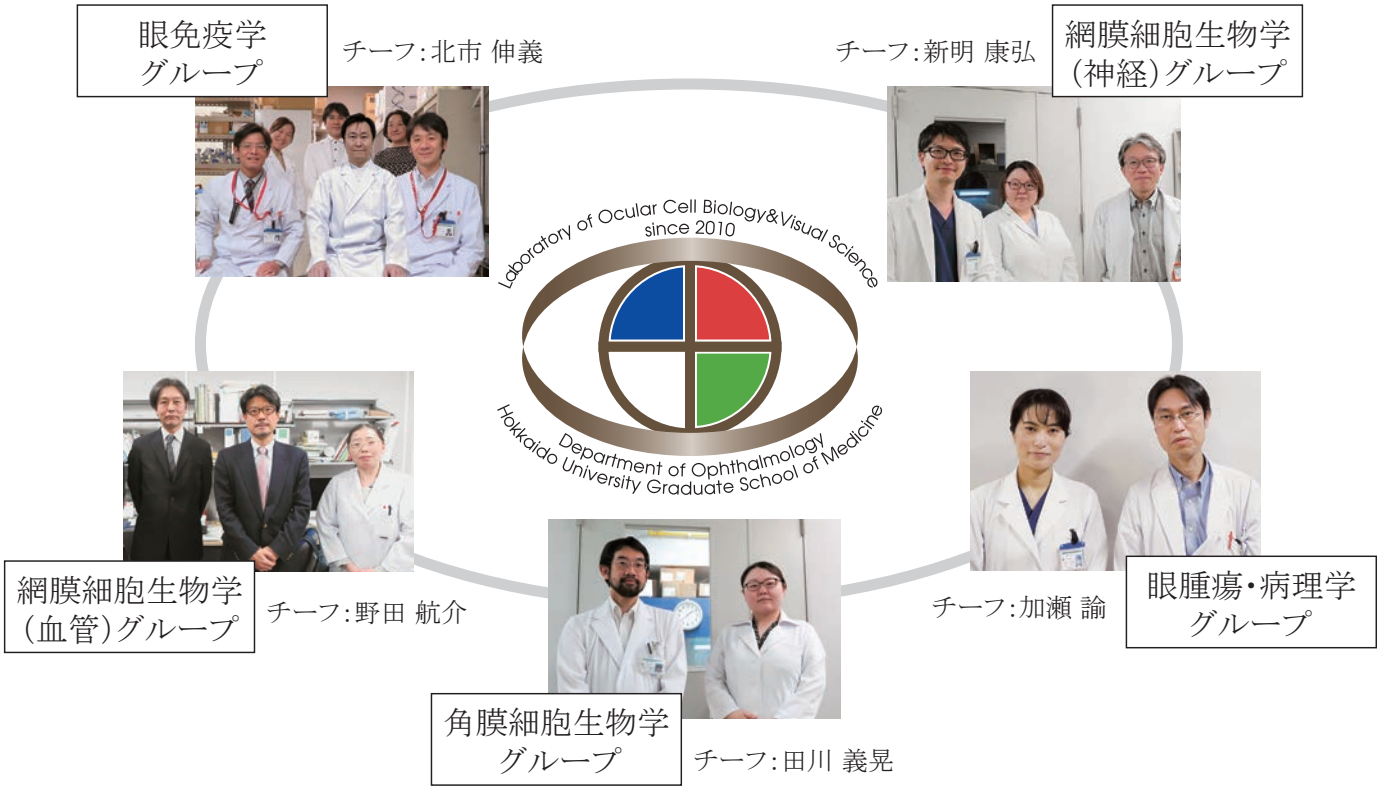
コラム～よくある質問～その２

Ｑ：入局後の研修プログラムを教えてください。
Ａ：病棟業務中心と外来業務中心の２チームに分かれます。
外来では、上級医の指導のもとで外来患者さんを診察し、また専門外来の診療のサポートを行います。
病棟では、指導医と共に入院患者さんを診察し、多数の手術に助手として参加します。数ヶ月後からは部分的に執刀も始めます。

Ｑ：研修体制はどのようになっていますか？
Ａ：病棟では慣れるまで上級医より指導を受けます。主に４～８年目の専門分野を習得中の医師が指導にあたります。幅広い分野の症例を共有しながら、日常業務における様々な手技や知識を習得していきます。外来・病棟のどちらに配属されても上級医と共有する時間が豊富にありますので、わからないことをすぐに質問できる環境にあります。

特徴③ 充実した研究体制

北大眼科には「眼細胞生物学視覚科学研究室」があります。網膜細胞生物学（血管）、網膜細胞生物学（神経）、眼免疫学、眼腫瘍・病理学、角膜細胞生物学と５つの研究グループが存在し（下図参照）、各グループチーフと研究室スタッフが大学院生とともに各分野における最先端の研究に挑んでいます。また、大学院卒業生は博士号取得後に臨床や海外留学などさまざまな分野で活躍しております。



研究運営委員

［教　授］
石田 晋

［研究主任］　［研究副主任］
野田 航介　　村田 美幸

コラム～よくある質問～その３

Ｑ：大学院の一番良い進学時期は？
Ａ：大学院進学時期としては、ある程度臨床の研鑽を積んだ後に、進学することを推奨しています。

Ｑ：留学は入局後何年で行かせてもらえますか？
Ａ：特に決まりがあるわけではありませんが、まず眼科専門医資格の取得という必須の関門がありますので、受験資格が得られる最初の約４年間は国内で研修したほうが良いでしょう。その後ご自身の専門を決めて数年間キャリアを積み、あるいは大学院に進学して知識や技術を習得してから留学するのが一般的です。

特徴④ 多彩なカンファレンス

北大眼科では、毎週実施される様々なカンファレンスによって、専門知識を習得することができます。

リサーチカンファレンス

外部から講師を招いて講演会を実施する他、内部の研究発表、
研究に関する論文の紹介といった形をとることもあります。
臨床研究および基礎研究を通じて
科学的に病態を理解することができます。

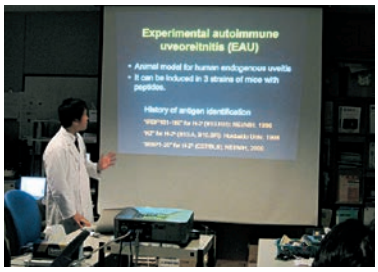
クリニカルカンファレンス

その週に外来を受診した症例などを取り上げ、
診断や今後の治療について医局員全員で討論を行います。
また翌週の手術予定患者についての検討会も行います。

イブニングクルグス

学生および研修医を対象に行っている講義です。
専門分野ごとに、さまざまなテーマが設定され、
年間70回以上実施しています。

初診チェック



毎日の初診患者について検査の計画の立て方や、
診断の考え方、治療方針の決め方などを
研修医に指導しています。
ここで問題となった症例は、
クリニカルカンファレンスで取り上げます。

コラム～よくある質問～その４

Q：入局後将来の選択肢はありますか？
A：研究、臨床、開業など、どう選択するかは本人の意思が最も尊重されます。
臨床重視であれば、関連病院への出張、大学病院での専門外来の診療で経験を積んでいくことができます。
研究重視であれば大学院（3または4年）で博士号を取得し、その後国内・海外留学というコースがあります。
眼科臨床経験４年後に眼科専門医認定試験を受ける資格が得られます。
また数多くの同門の先生が開業されていますので参考になると思います。

Q：勤務時間は？何時頃に帰れますか？
A：朝は7～8時に出勤している先生が多いです。帰宅時間については、上記カンファレンスがある場合、各終了時間まで、他の日は分担した仕事が終われば帰宅できます。平均すると19～20時ではないでしょうか。ただし学会前の準備や、緊急手術、外勤、受け持ちの症例が多いなどの要素が重なると、帰宅が深夜近くになることもあります。

Q：休暇（夏休み、冬休み、単発の休み）は取れますか？
A：後期研修１年目から、１週間（月曜～日曜）×年２回の休暇を取ることができます。
時期は他の先生と重ならないように話し合いで調整します。年始年末は分担制なので当直以外の日は休めます。
その他、国内外の学会参加時、他施設見学の時はお休みが認められますが、仕事と関係のない単発の休みについては要相談となります。

Q：出産後育児をしながら仕事を続けることは可能でしょうか？
A：北大眼科には、育児をしながら仕事を続けている先生もたくさんいます。“出産後も優秀な眼科医として活躍してほしい”
というのが教室の基本方針ですので、教室全員でサポートする環境を整えています。

後期研修医募集について

興味のある方はぜひ一度、見学にお越しください。
病棟診療、外来診療、手術見学、研究室見学、各カンファレンスを体験することができます。
1日～数日の見学は随時受け付けております。また、午前中のみ数時間の見学も可能です。
見学日時等につきましては調整致しますので、ご希望の方は下記までご連絡ください。

連絡先：医局長　南場研一
〒060-8638
札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学大学院医学研究院眼科学教室
☎ 011-706-5944
✉ ganka2@med.hokudai.ac.jp

眼科医局は南棟3階です。北13条門から入り、
銀杏並木を通り、つきあたりを右折してください。
右手に医学部正面玄関がありますので、
受付にてお尋ねください。

眼科は眼と視覚を扱う専門性の高い科です。内科的にも外科的にもアプローチすることができます。
手術がしたいのか、薬での治療がしたいのか、また研究がしたいのか迷っている方でも、
眼に興味がありさえすれば何らかの道が開けてくるというユニークな分野であります。
いわゆるマイナー外科の一つですが、人間にとって眼が見えるということの重要性を考えると、
眼科の仕事の重み、やりがいを理解していただけると思います。

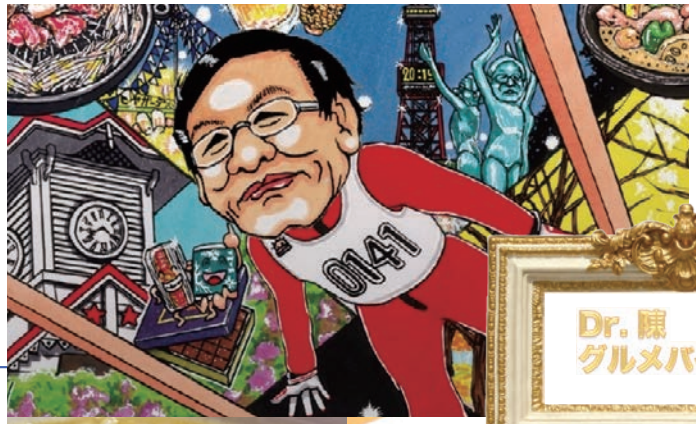
眼科は比較的独り立ちするのが早い科と考えられます。白内障の手術は、1年目から部分的に執刀、
2-3年目になれば一人で最後まで執刀していただいています。この手術は顕微鏡下で行なう難しい手術です。
それが早く執刀できるようになる理由は、年間2，000例を越える膨大な手術件数があることと、
豚眼を用いた実習などの教育に力を注いでいるからでありましょう。

北大眼科は、ぶどう膜炎や神経眼科といった内科的治療にて
高名な教授が歴任されてきた、伝統のある教室です。
さらに現教授の就任後は、外科的治療がさらに充実し、
研究室も活気あるものとなり、
どの方面にも強い教室として成長を続けています。
その分、仕事は楽ではないかもしれませんが、
ありふれた疾患から珍しい疾患まで、
幅広く能率よく勉強することができる場所です。

今がチャンスです。
勢いのある教室で、
若いパワーを思う存分発揮させてみませんか？

私たちが責任を持って指導いたします
皆さん、ぜひ北大眼科で一緒に学びましょう！

岩田 大樹
北海道大学大学院医学研究院眼科学教室　診療講師・教育主任



ISBN978-475810060-1
C3047

9784758100601

1923047018007

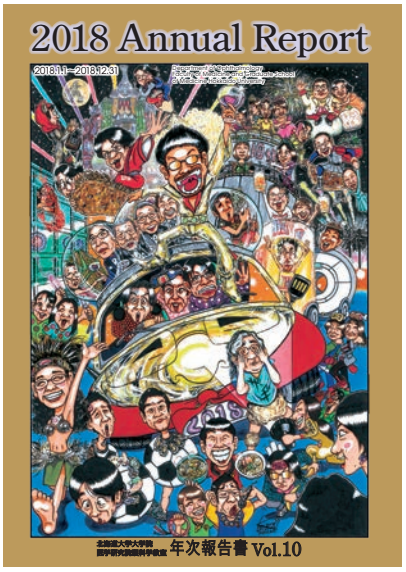
定価（本体priceless＋税）

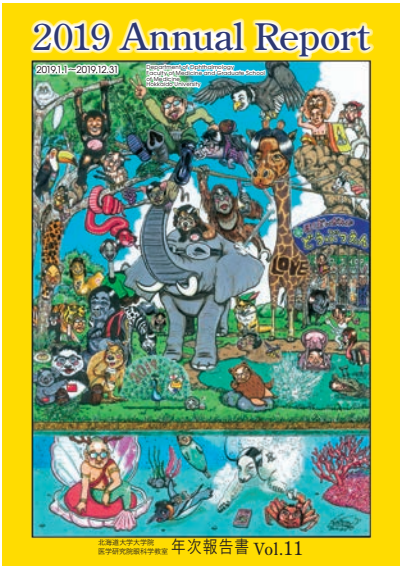
北大眼科が誇る最強のグルメ教授
陳進輝先生が、発掘した名店が大集合!!
北大眼科ホームページにて絶賛公開中!

http://eye.med.hokudai.ac.jp/

アニュアルレポート

眼科で働く医師やメディカルスタッフの紹介や、業績データ、最新のトピックスのご案内などを掲載しています。





北海道大学大学院医学研究院眼科学教室　後期研修プログラム　2021年8月1日発行（通巻約500号）2009年4月1日第4種郵便物認可？　制作・編集・発行／北海道大学大学院医学研究院眼科学教室